



内田 紫音（うちだ しおん） 松枝小 6年生

作品名：『西の魔女が死んだ』を読んで

図 書：西の魔女が死んだ

夏休みの旅行で偶然、ある映画のロケ地を訪れた。それは、『西の魔女が死んだ』のおばあちゃんの家だ。

昔一度観た事のある映画だったが、内容はほとんど覚えていなかった。そこで、旅行の後DVDを借りて観てみたのだが、正直インパクトが無かった。そう言うと、姉から原作本を読んでみる事を勧められた。

中学生になり、学校へ行きたくなくなってしまった主人公まいは、「西の魔女」ことおばあちゃんの家で暮らす事になった。そしてまいは、おばあちゃんとの魔女修行の中で、何でも自分で決め、決めた事は最後までやり抜く事を学んでいく、という物語だ。

一番印象に残ったのは最後の場面、まいが、亡くなったおばあちゃんからのメッセージを見つけた所だ。素直になれないままでおばあちゃんのもとを離れてしまったまいだが、おばあちゃんはまいとの約束を忘れず、守ってくれた。まいに対するおばあちゃんの愛情にとても感動した。

物語全体を通して、私はまいにすごく共感した。なぜなら、まいと同じように、私にも大好きなおばあちゃんがいたからだ。

私のおばあちゃんは、優しいけれど厳しい、まさに「西の魔女」のような人だった。特に座り方や話し方。決しておこりはしないのだけれど、ここまではしっかりやる、と決めたラインは絶対にゆずらない。孫だから、とって甘やかしすぎない人だった。

まいがおばあちゃんと一緒に野いちごのジャムや虫よけのハーブティーを作ったように、私にもおばあちゃんと一緒に何かを作った思い出がたくさんある。よく覚えているのは、「水団」作りと「つるしびな」作りだ。水団作りでは、楽しく作れるよう、食べる人の事を考えながら、形や大きさを変えたりして作った。つるしびな作りでは、幼かった私でも作れるように、わかりやすく、ていねいに教えてくれた。私のおばあちゃんは、ただ教えるだけではなく、わかりやすく、ていねいに説明をし、楽しみながら作れるように、いつも工夫してくれていたのだ。

まいは、おばあちゃんとの魔女修行を通して学んだ事を、おばあちゃんが亡くなってからも続けている。何でも自分で決めて、決めた事は最後までやり抜く、という事だ。私もそうしたい。おばあちゃんが私に教えてくれた事を他の人にも伝えた

い。そして、おばあちゃんに教えてもらった事だけでなく、他の事でも、どんな人にでも、わかりやすく、ていねいに説明し、楽しみながらできるように教えたいと思う。まいの姿勢を見習いたいと思うし、そうする事で、おばあちゃんも喜んでくれると思うからだ。

映画を観た時は、内容すら全然わからなかった。しかし、本を読んだ今、もう一度映画を観たら、内容だけでなく、他に感じるものもあるかもしれない。もっと世界が広がって見えるかもしれない。この本を読んで、また映画を観たいと思えた。本はすごい。本一冊で、こんなにも見方が変わるものだと、知る事ができてうれしかった。